写真で見る
相馬港の60年

「相馬港」60th anniversary

福島県相馬港湾建設事務所

もくじ

発刊のことば……Ｐ．　１

相馬港の歴史……Ｐ．　２

歴代所長……Ｐ．　６

歴代所長からの寄稿文……Ｐ．　７

航空写真で見る相馬港の移り変わり……Ｐ．１３

写真で見る相馬港の歩み……Ｐ．１７

近隣施設の状況……Ｐ．２８

東日本大震災の記録……Ｐ．３０

歴代職員……Ｐ．４１

「相馬港の開港60周年を迎え」

福島県土木部相馬港湾建設事務所長（第26代）
近内　剛

相馬港は、令和２年１月に開港してから60年が経過しました。江戸時代には、北湊又は原釜港と呼ばれて、塩などの積出港として繁栄したと文献に記載され、その後製塩業廃止により一時漁港となった時期もあったようですが、昭和30年代からは本格的に港湾としての整備が始まり、昭和35年１月に地方港湾の指定を受け、名称も「相馬港」と命名され、その後、昭和49年４月に重要港湾の指定を受け、現在に至っております。

これまで、この相馬港の建設に携わった多くの方々の多大な御尽力により、この大きな節目である60周年を迎えられたことは、大変嬉しくそして誇りに思っております。

近年では、東日本大震災による津波で整備された施設が大きな被災を受け、災害復旧や復興事業などにより、平成30年には震災前の状況まで復旧しました。その10年間にふ頭背後地には、石油資源開発㈱や㈱アイテックなどの新たな企業が進出し、今年度末には米沢と相馬を結ぶ自動車専用道路の「相馬福島道路」が全線開通し大きく物流が変わると予想しておりますが、一方では今年、世界的流行した新型コロナウイルスにより、人の移動制限に始まり、企業活動の停滞による景気の後退など、港湾にも少なからず影響がでており、相馬港を取り巻く環境は大きく変わっております。

このような激変の中、相馬港の歴史の60年を振り返り、記念誌として「写真で見る相馬港の60年」を作成することができました。特に東日本大震災により港湾事務所が津波で流され資料が不足した中、この記念誌に貴重な写真などを御提供してくださった関係者の方々にはこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

最後に当事務所の所長を歴任された方々には、当時を振り返り御投稿の御協力を賜り厚く御礼申し上げますとともに、今後相馬港が益々発展し、100年、200年と続くことを願って御挨拶といたします。

相 馬 港 の 歴 史

沿　　革

重要港湾「相馬港」は、福島県浜通り北部の相馬市及び新地町に位置し、福島市、仙台市へそれぞれ約 50km、東京からは 300km の圏内にある。

相馬港の本格的な整備は、昭和 34 年に「相馬地方における港湾計画の構想並びにこれに関する経済開発計画」を調査委託し、港湾を基地とした相双地方の総合的な地域開発計画の検討により始まった。

昭和 35 年 1 月には地方港湾の指定を受け、名称も「相馬港」と改められた。翌 36 年から広域経済圏の流通港湾を目指した整備に着手し、昭和 45 年には、1 号ふ頭 2,000 トン岸壁 1 バース、物揚場、南防波堤が完成、同年 10 月には内航商船が初入港し、本格的な港湾として第一歩を踏み出した。昭和 49 年 4 月には、広域経済圏への流通港湾としての重要性が認められ、待望の重要港湾に指定された。さらに、近年のエネルギー需要の変化に対応したエネルギー基地としての整備や地域住民に親しまれる環境の整備への要請が高まり、これに対応するため、平成 2 年を目標年次とした港湾計画の改訂が昭和 56 年 8 月港湾審議会第 95 回計画部会で決定された。

その後もエネルギー港湾として 5 号ふ頭などの施設整備が着々と進む一方で、昭和 63 年 6 月には関税法による開港指定、平成 2 年 1 月には無線検疫対象港の指定を受け、外航船舶が直接入港できる国際港となった。

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災により、相馬港の施設・設備のほとんどが損壊したが、平成 27 年 1 月 26 日に被災した岸壁の復旧が完了し、平成 27 年 5 月には 3 号埠頭第 4 岸壁が、平成 29 年 12 月には 4 号埠頭 LNG バースが供用開始、平成 30 年 3 月には沖防波堤の災害復旧事業が完了するなど、復旧・復興に向けた整備が進捗している。

今後の相馬港整備の方向として、基本的には、平成 25 年 10 月に一部改訂された相馬港港湾計画に基づき港湾機能の充実を図っていくこととしている。特に、相馬福島道路の全線開通等の広域道路ネットワーク網整備による背後圏の拡大により、福島県北部地域及び宮城・山形両県南部地域を含めた経済圏への物資流通の拠点港として、商港的機能に重点を置いた港湾整備を進めるとともに、既存の岸壁を活用してクルーズ船を受け入れる玄関口としての環境整備を進めていくなど、地域に親しまれる新しい時代の要求に対応した港づくりを目指している。

年　月　日	出　　来　　事
江戸(嘉永･安政)	北湊又は原釜港と呼ばれ、塩、藩租米の積出港として栄えた
明治　9.	年間出入船舶 64 隻、米 3,380 俵、塩・陶器・絹布等 35,295 個扱う（海事録）
37.	松川浦、新沼浦の製塩業廃止により、一漁港としての原釜港に至る
昭和 30.	原釜港として漁港修築工事に着手
34. 12.	「相馬地方における港湾計画の構想並びにこれに関する経済開発計画」を日本港湾協会に委託する
35. 1. 25	**地方港湾となり、「相馬港」と命名、福島県が管理者となる**
12.	相馬工業港計画策定（日本港湾協会に委託）
36.	相馬港港湾修築工事に着手
37. 2.	第 1 次港湾整備 5 ヶ年計画策定
40. 8.	第 2 次港湾整備 5 ヶ年計画策定
44. 3.	第 3 次港湾整備 5 ヶ年計画策定

年　月　日	出　　来　　事
45. 4. 1	福島県相馬港湾建設事務所開設
10. 1	1 号ふ頭 2,000 トン岸壁（－ 5.5 m）1 バース供用開始
10. 11	第 8 三福丸（485G/T）がけい石 750 トンを積載して初入港する
11. 13	木材船（山嶋丸 1,998G/T）が初入港
11. 28	地方港湾相馬港開港式挙行
12. 17	セメント船（北洋丸 1,360G/T）が初入港
46. 7. 30	相馬港建設促進期成同盟会設立
47. 3.	第 4 次港湾整備 5 ヶ年計画策定
48. 3.	相馬地域工業開発計画策定
49. 4. 23	**重要港湾に指定される**
50. 4.	1 号ふ頭 2,000 トン岸壁（－ 5.5 m）1 バース、同 5,000 トン岸壁（－ 7.5 m）1 バース供用開始
8.	外国船（スラブヤンカ 2,210G/T　ソ連）初入港
9. 19	相馬港外材輸入調整協議会設立
12. 22	相馬港港湾計画（新規）が港湾審議会第 71 回計画部会において審議決定
51. 9.	2 号ふ頭建設に着手
10.	第 5 次港湾整備 5 ヶ年計画策定
52. 3.	相馬地域開発見直し案策定
5. 13	相馬港植物検疫協会設立
53. 3.	県営 1 号上屋完成
4. 10	**植物防疫法による輸入木材特定港に指定**
54. 10.	2 号ふ頭埋立完了
55. 4.	2 号ふ頭 5,000 トン岸壁（－ 7.5 m）2 バース供用開始
12.	相馬中核工業団地が電源地帯工業団地として整備決定
	相馬港テニスコート完成
56. 4.	**エネルギー港湾として整備事業開始**
6.	相馬共同火力発電（株）設立
7. 1	小名浜税関支署相馬出張所開設
8.	2 号ふ頭 2,000 トン岸壁（－ 5.5 m)1 バース供用開始
8. 19	相馬港港湾計画（改訂）が港湾審議会第 95 回計画部会において審議決定
11.	第 6 次港湾整備 5 ヶ年計画閣議決定
12. 1	港湾区域が変更になる
	運輸省第二港湾建設局小名浜港工事事務所相馬港分室開設
57. 3.	廃棄物処理施設（焼却炉）完成
7. 29	エネルギー港湾建設起工式挙行
8. 24	客船（さんふらわぁ）入港
58. 3. 24	沖防波堤用ケーソン第 1 号函進水
4. 1	1 号ふ頭 2,000 トン岸壁（－ 5.5 m）3 バース、5,000 トン岸壁（－ 7.5 m）2 バース供用開始
59. 2.	漁業補償妥結
11.	5 号ふ頭建設に着手
60. 3.	相馬港野球場完成
61. 4. 25	初の相馬港船籍の貨物船（吉徳丸 449G/T）　入港
11.	第 7 次港湾整備 5 ヶ年計画閣議決定
62. 7. 10	**港則法の適用港となる**

年　月　日	出　来　事
63. 3.	展望台完成
6. 1	**関税法による開港指定**
6. 24	廃棄物埋立護岸建設に着手
平成 2. 1. 1	**無線検疫対象港となる**
3. 30	5 号ふ頭埋立完了
3. 1. 24	2 号ふ頭 30,000 トン岸壁（－ 12 m）建設に着手
3. 20	5 号ふ頭 141,000㎡を相馬共同火力発電（株）へ譲渡
11. 29	第 8 次港湾整備 5 ヶ年計画閣議決定
4. 3. 31	廃棄物埋立護岸概成
4. 12. 18	2 号ふ頭北側野積場 21,640㎡完成
5. 3. 31	沖防波堤北側完成（L ＝ 2,130 m） － 14 m 泊地浚渫完了、－ 15 m 泊地浚渫完了 5000D/W 級ドルフィン 1 基完成
7. 2	5,000D/W 級ドルフィンに重油船（昭慶丸 3,080G/T）が初入港
8. 6	相馬共同火力発電（株）新地発電所の 1 号揚炭バース竣工
6. 3. 31	相馬共同火力発電（株）新地発電所の 2 号揚炭バース竣工
12. 13	－ 12 m 泊地浚渫完了
7. 4. 1	2 号ふ頭 30,000 トン岸壁（－ 12 m）1 バース供用開始
5. 6	2 号ふ頭 30,000 トン岸壁に第 1 号船（オリエント・グレース 13,725G/T）入港
11. 2	県営 2 号上屋供用開始
11. 27	相馬港港湾計画（改訂）が港湾審議会第 156 回計画部会において審議決定
8. 3.	相馬港釣桟橋完成
5. 2	福島県相馬港利用促進協議会設立
11. 4. 1	**植物防疫法の輸入植物指定港となる**
8. 18	3 号ふ頭地区の公有水面埋立免許を受け、本格的に現地着手する
13. 11.	クルーズ船（飛鳥）寄港
14. 4. 1	県営 3 号上屋供用開始
5. 21	大型荷役機械供用開始
8.	クルーズ船（飛鳥）寄港
15. 10.	クルーズ船（にっぽん丸）寄港
16. 7. 1	SOLAS 条約に基づき、2 号ふ頭制限区域の設定
17. 7. 19	臨港地区の拡大変更、301.4ha
7.	クルーズ船（にっぽん丸）寄港
12. 26	分区指定　301.4ha
21. 4. 4	内航フィーダーコンテナ定期航路開設　2 号ふ頭（2-3 バース）
4. 7	新地町海釣り公園オープン
22. 2.	5 号ふ頭 2,000 トン岸壁（-5.5 m）1 バース供用開始
3. 25	5 号ふ頭危険物取扱用地に立地した丸昭興業（株）が操業開始
10. 12	内航フィーダーコンテナ定期航路拡大（八戸～神戸）
23. 3. 11	東北地方太平洋沖地震発生（新地町：震度 6 強、相馬市：震度 6 弱）、港湾施設及が被災
3. 25	緊急物資輸送船第 1 船（海翔丸 4,651G/T）入港
3. 29	広域防災フロート（北海道開発局所管）入港、2 号ふ頭先端護岸に配置
4. 28	震災後初となる商用船（第一天照丸 498G/T）が石灰石 1,570t を積載し入港
8. 8	震災後初となる外航船（LE SHAN15,542G/T）がコレマナイト 6,000t を積載し入港

年　月　日	出　　来　　事
12. 17	内航フィーダーコンテナ航路再開、コンテナ船 (神若 749G/T) が入港
24. 1. 6	震災後初となる輸出 Ro-Ro 船（FESCO GAVRILL,3,810G/T）が入港し中古自動車を積載
2. 9	震災後初となる専用ふ頭への石炭船 (SHIRAKUMO,47,051G/T) が入港
6. 27	震災後初となる施設の本格復旧として、2 号ふ頭先端護岸が完成
10. 12	2 号ふ頭の野積場の一部が復旧
11. 7	2 号ふ頭内の臨港道路の一部が復旧
12. 18	1 号ふ頭内の臨港道路の一部が復旧
25. 1. 11	震災で被災した大型荷役機械が新設・設置される
1. 30	2 号ふ頭 2,000 トン岸壁（－ 5.5 m）1 バース復旧・供用開始
5. 31	1 号ふ頭 2,000 トン岸壁（－ 5.5 m）4 バース復旧・供用開始
7. 4	2 号ふ頭 5,000 トン岸壁（－ 7.5 m）1 バース復旧・供用開始
9. 2	1 号ふ頭 2,000 トン岸壁（－ 5.5 m）1 バース復旧・供用開始
10. 28	相馬港港湾計画の変更（一部変更）及び臨港地区の分区が第 23 回福島県地方港湾審議会において審議決定
10. 29	2 号ふ頭 5,000 トン岸壁（－ 7.5 m）1 バース復旧・供用開始
12. 25	1 号ふ頭 5,000 トン岸壁（－ 7.5 m）1 バース復旧・供用開始
26. 3. 24	3 号ふ頭耐震強化岸壁（－ 12.0 m）1 バース供用開始
3. 27	5 号ふ頭 2,000 トン岸壁（－ 5.5 m）1 バース復旧・供用開始
6. 18	4 号ふ頭地区の公有水面埋立免許を受け、本格的に現地着手する
27. 1. 26	1 号ふ頭 5,000 トン岸壁（－ 7.5 m）2 バース復旧・供用開始 被災した全公共岸壁の復旧完了・供用開始
27. 3. 31	3 号ふ頭地区の公有水面埋立の竣功認可
5. 14	3 号ふ頭 10,000 トン岸壁（－ 10.0 m）1 バース供用開始
28. 6. 16	クルーズ船（にっぽん丸）寄港
7. 22	4 号ふ頭地区の公有水面埋立の竣功認可
29. 9. 30	4 号埠頭 LNG バース完成
29. 10. 1	**港則法の特定港となる**
29. 11. 15	SOLAS 条約に基づき、3 号ふ頭制限区域の設定
29. 12. 1	SOLAS 条約に基づき、4 号埠頭制限区域の設定
29. 12. 6	LNG 第 1 船入港
30. 3. 15	沖防波堤災害復旧事業完了
30. 3. 27	臨港道路 1 号線 4 車線化完成
30. 3. 30	臨港地区の拡大変更、331.8ha 分区指定 331.8ha
30. 4. 27	相馬港テニスコート再開
30. 6. 1	相馬港野球場再開
30. 7. 20	SOLAS 条約に基づき、1 号埠頭制限区域の設定
31. 4. 19	新地町海釣り公園拡張再オープン
令和 2. 2. 18	相馬港クルーズ振興協議会設立

歴 代 所 長

福島県相馬港湾建設事務所
歴代所長

初代　影山　寅雄（昭和四十五年～四十七年）
第二代　杵渕　忠信（昭和四十八年～五十年）
第三代　木ノ戸　政一（昭和五十一年～五十二年）
第四代　竹内　英次郎（昭和五十三年～五十四年）
第五代　松崎　哲夫（昭和五十五年～五十六年）
第六代　松田　忠倫（昭和五十七年～五十八年）
第七代　三浦　次男（昭和五十九年～六十年）
第八代　河原田　幸雄（昭和六十一年～六十二年）

第九代　斎藤　健秀（昭和六十三年～平成二年）
第十代　髙野　勝昭（平成三年～五年）
第十一代　田辺　宏（平成六年～七年）
第十二代　仙波　安弘（平成八年～九年）
第十三代　郡司　和夫（平成十年～十一年）
第十四代　吉田　好秀（平成十二年）
第十五代　橋本　武彦（平成十三年）
第十六代　高橋　康寛（平成十四年～十五年）
第十七代　小柳　秀一（平成十六年～十七年）

第十八代　有我　修二（平成十八年～十九年）
第十九代　和田　寿美男（平成二十年）
第二十代　大堀　雅治（平成二十一年）
第二十一代　浅野　俊和（平成二十二年）
第二十二代　山内　正臣（平成二十三年～二十五年）
第二十三代　宗像　良夫（平成二十六年～二十八年）
第二十四代　南場　貴史（平成二十九年）
第二十五代　猪狩　倫（平成三十年～令和元年）

歴代所長からの寄稿文

第 12 代所長　仙波　安弘

〔相馬港利用促進協議会の設立について〕

相馬港湾 60 周年おめでとうございます。

そして、平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災から相馬港の復旧に関係された皆様方の大変な御努力、御苦労に対して敬意を表します。

さて、私が赴任した平成 8 年相馬港の整備状況は、1 号、2 号そして 5 号ふ頭（相馬共同火力発電所の－１４m専用バース）が供用開始されているだけの状況で、まだまだ整備途上で取扱い貨物量も少なかった。背後の既存企業からの利用も少なく、相馬中核工業団地へ数社が進出していたが、利用する企業は無い状況でした。

そのため、相馬港を整備し、相馬地域の発展を図るためには、港湾の取扱い貨物量を増加させ、利用促進させる事が、大きな課題であった。その対策の一つとして、福島県、地元相馬市が中心となり「相馬港利用促進協議会」を設立しました。

設立後は、相双地方の既存企業、県内主要企業そして相馬中核工業団地へ進出予定されていた大阪市の「共英製鋼」（後に撤退）、山形県米沢市等などへも機会あるごとに利用のポートセールスを行った。（特に相馬市商工会議所の元酒井会頭には時間を割いて同行いただき、今心より御礼申し上げます。）

結果として港湾各施設の未整備（ガントリークレーン等）や背後道路等インフラの未整備が利用上の課題として残った。（当時としては、コンテナ定期航路の開設などは、遠い話しであると思っていた。）

最後に、ぜひ今後も相馬港の整備、相馬地域発展のため物流企業等と定期的に情報交換しポートセールスを行いながら利用促進を図ってもらいたいと思っています。（なお現在の相馬港の状況は分かりませんので私が勤務していた当時のポートセールスの考えを記述しました。）

第 13 代所長　郡司　和夫

当時、貨物量は、計画と大幅に乖離し、三号四号埠頭の建設は夢物語と思っていた。また、会計検査時担当課長の直々のやり取りが一日中続き、黙秘で通したことが思い出される。その後、局長の検査も続きセーフとなったが、現在の隆盛からは考えられないと思われる。

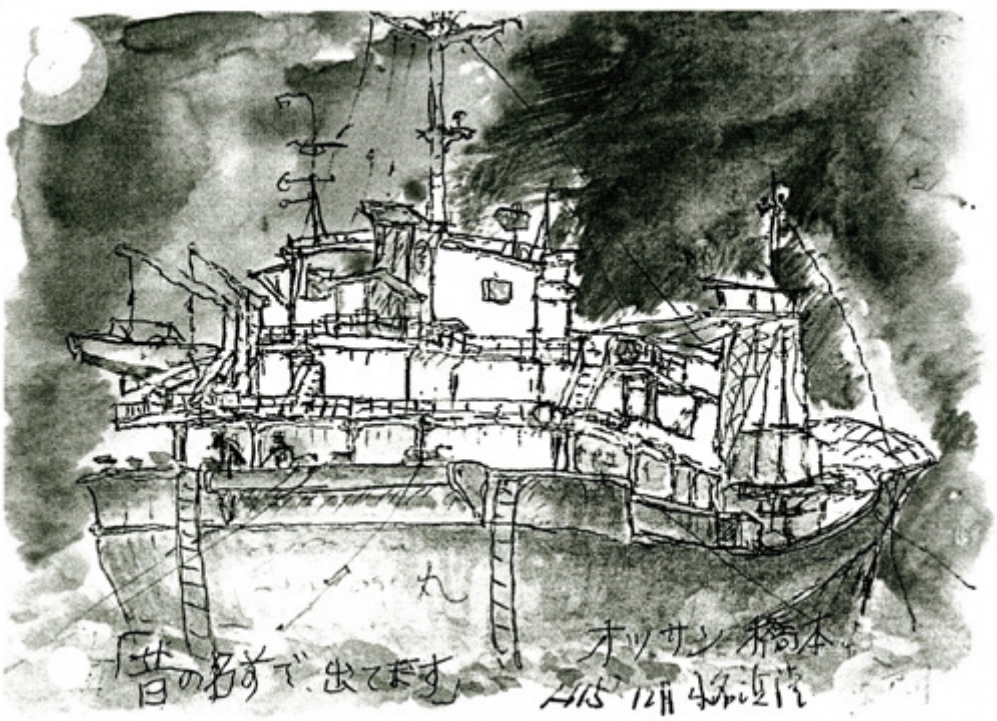
最後に、当時一緒に努力された職員の方々に感謝申し上げますと共に関係者のご努力に敬意を表します。

第 15 代所長　橋本　武彦

関係者の皆様、その後いかがおすごしでしょうか。

私は思い出を絵にしてみました。

愚作にてごきげんをうかがいます。



第 16 代所長　高橋　康寛

60 年の間には、自然災害や社会経済状況の変化によって、事業推進に苦労された先輩の方々に敬意を表します。

私が勤務した平成 14 年度からの２年間は、３号埠頭の早期完成を目指し重点投資を行っており、さらに、港の利活用促進のために各地でポートセールス活動等を行っておりました。

今後とも、相馬・福島地方の発展に欠かすことの出来ない相馬港の整備が促進されることを願って、60 周年記念のお祝いとします。

第 17 代所長　小柳　秀一

当時ふ頭等の整備はある程度進んでおりましたが、利用が進まず広大な土地が活かされていない印象でした。

利用促進上最大のネックはアクセス道路の悪さで、その改善要望が多くの企業からありました。

現在、要望が実を結び、大きな発展を遂げている様子を見ると、関係各位の努力に改めて敬意を表します。

今後とも重要港湾としての役割を念頭に、さらなる発展を期待しています。

最後に、地震は決して避けられません。東日本大震災の教訓を忘れず人命を第一に管理に万全を期して下さる事を願っています。

第 18 代所長　有我　修二

相馬港の思い出、今後への期待

港湾施設は使われて初めての存在意義。夢中になってポートセールスをした。背後の利用環境、仙台港と小名浜港の狭間。一人の努力だけでは越えられない壁も感じた。震災を乗り越え、想像すら出来なかった相馬港が見られた。希望の道も拓けた。未知のお客さんがいることを期待して行動しよう。

第 19 代所長　和田　寿美男

相馬港湾 60 周年おめでとうございます。

私は相馬港湾建設事務所に係長として２年（平成６～７年）と所長として１年（平成 20 年）の３年間お世話になりました。所長の時には内航コンテナ定期航路開設のため、井本商運（株）と勉強会を行い、立谷相馬市長の人力で航路開設が決まったのをおぼえております。また、石油資源（株）が新潟港（ガス基地拡大）と相馬港のガス基地（新設）を検討しており、勉強会を継続する様お願いしていたことが今の４号ふ頭のガス発電所及びガス基地につながっている事をうれしく思います。

今後、相馬港が益々発展することを祈願しております。

第 20 代所長　大堀　雅治

相馬港が地方港湾の指定を受け６０周年を迎えられたこと、お祝申し上げます

私が相馬港湾建設事務所に赴任した平成２１年４月には、福島県相馬港利用促進協議会の皆さまの長年の活動が実を結び井本商運株式会社による内航フィーダーコンテナ定期航路が開設され、また５号ふ頭には新地町が海釣り公園をオープンさせるなど相馬港の新たな利活用が始まりました

近年、高速自動車道の整備が進みアクセス機能が強化される等により今後ますます相馬港が発展するものと期待しております。

第 21 代所長　浅野　俊和

思い出と言えば何といっても東日本大震災です。職員は無事だったものの所長室には直径１m位の丸太が突き刺さる等事務所は崩壊しました。

震災の翌日から仮事務所で業務を開始して間もなく、海上保安庁から病人を搬送させる巡視船を入港させるために埠頭の安全確認を依頼されました。

そこで、緊急に道路啓開を自衛隊と建設会社にそして深浅測量のため測量船の手配を国交省に依頼する等着岸準備を行い埠頭の安全を確保しました。

白い大型の巡視船が病院からの重症患者をヘリで搬送している姿を埠頭に見た時にはこれまでの労苦が報われたと感動したことが昨日のようです。

第 22 代所長　山内　正臣

私の着任は、大震災の爪痕が生々しく残る中、相馬港の機能復旧を最優先に災害調査との平行作業のスタートでした。在職中の平成 25 年度末までに 10 都府県から延べ 178 名の災害派遣職員の支援により、公共 13 バースのうち 11 バースを復旧することができました。改めて関係者の皆様に感謝申し上げます。

第 23 代所長　宗像　良夫

相馬港湾 60 周年おめでとうございます。相馬港湾は東日本大震災で大きな被害を被りましたが、現在では防波堤や岸壁の復旧も終わり、新たにＬＮＧ基地の整備や、鉄鋼会社の進出、発電所用燃料の輸入などで、大きく発展してきており、私も、新事務所の建設時に在籍し、相馬港の整備に少しでも関われたことに感謝しています。

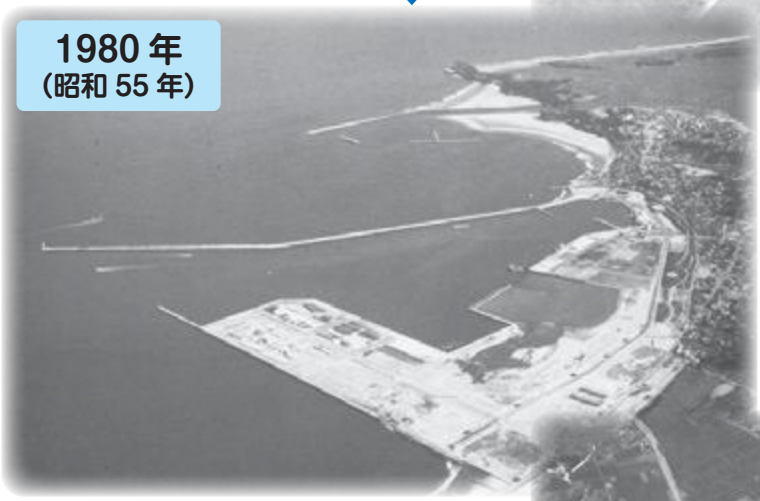
第 25 代所長　猪狩　　倫

相馬港 60 周年おめでとうございます。

東日本大震災で甚大な被害を受けた相馬港は、復旧事業と合わせて 3 号ふ頭や 4 号ふ頭の整備供用、臨港道路の 4 車線化など新たな港として生まれ変わり、相馬福島道路の全線開通により更なる発展が期待されております。

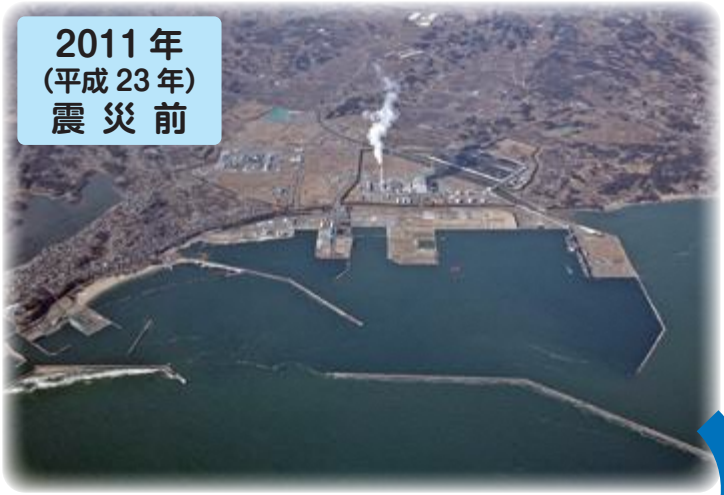
青い空と青い海、コンテナ船やクルーズ船が航行する相馬港の実現を心からご祈念申し上げます。

航空写真で見る相馬港の移り変わり



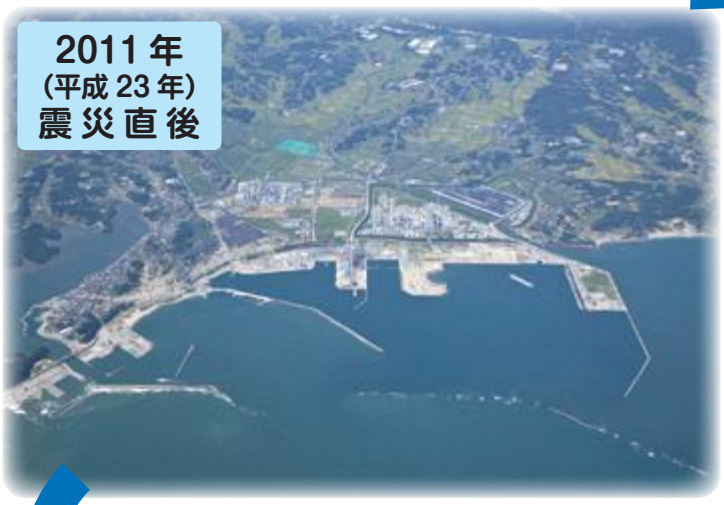
※平成 20 年頃のイメージバース

※平成 20 年頃の整備計画平面図



※震災前の 3 号ふ頭～ 5 号ふ頭

※震災後の 3 号ふ頭～ 5 号ふ頭



※震災後の沖防波堤

2015 年
(平成 27 年)

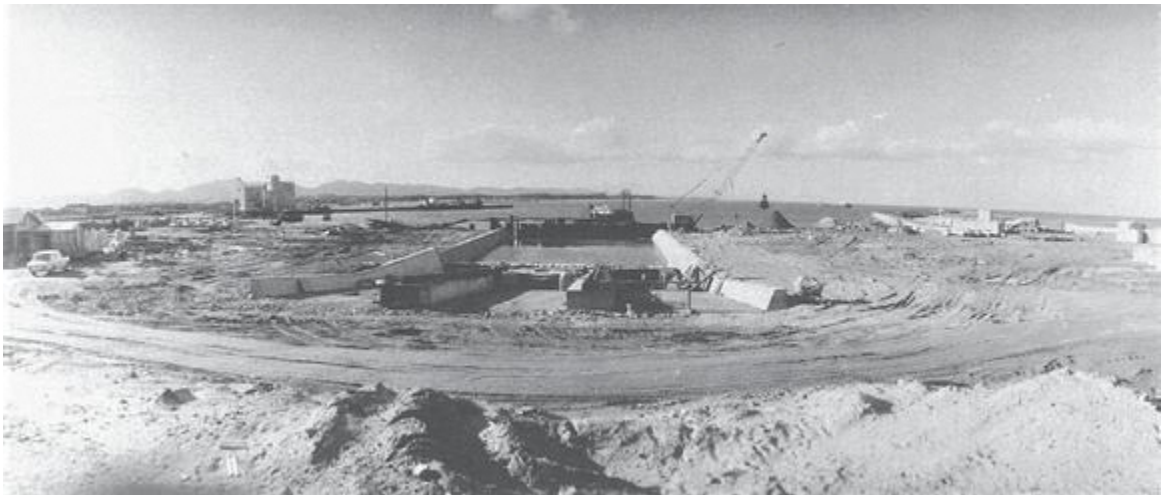
2017 年
(平成 29 年)

2020 年
(令和 2 年)

写真で見る相馬港の歩み

1960年(昭和35年)
ケーソンヤード近辺

1971年(昭和46年)
ケーソンヤード着工



1971年（昭和46年）ケーソン製作ヤード完成

ケーソンヤード拡大図

2009年（平成21年）
ケーソンヤードでの
最後のケーソン製作

1970 年（昭和 45 年）入港祝賀式

1970 年（昭和 45 年）入港祝賀式全景

1982 年（昭和 57 年）
エネルギー港湾起工式

1982 年（昭和 57 年）県知事玉串奉典

1988 年（昭和 63 年）
緑地展望台完成

1994 年（平成 6 年）1 号機　　1995 年（平成 7 年）2 号機
相馬共同火力発株式会社　営業運転開始

2004 年
（平成 16 年）
相馬港
イベント

2004 年
（平成 16 年）
護衛艦
むらさめ寄港

2005 年
（平成 17 年）
相馬港花火

2007 年頃（平成 19 年頃） 3 号ふ頭工事の様子 1

3 号ふ頭ケーソンの水中仮置き工事

３号ふ頭ケーソンの水中仮置状況

2009 年（平成 21 年）海釣り公園開園

2009 年（平成 21 年）相馬港定期コンテナ航路開設

2012 年
（平成 24 年）
震災後初
Ro-Ro 船入港
による
中古自動車積載

2016 年
（平成 28 年）
クルーズ船
にっぽん丸寄港

2017 年
（平成 29 年）
LNG
第 1 船入港

2018 年（平成 30 年）臨港道路 1 号線 4 車線化

2018 年（平成 30 年）相馬港テニスコート完成

2018 年（平成 30 年）相馬港野球場完成

2018 年（平成 30 年）
石油資源開発株式会社
福島天然ガス発電所（令和 2 年～運転開始）

2018 年（平成 30 年）
株式会社アイ・テック
相馬支店新設

2020 年（令和 2 年）コンテナトライアル

近隣施設の状況

～原釜～

明治末期

1945 年（昭和 20 年）

2005 年（平成 17 年）

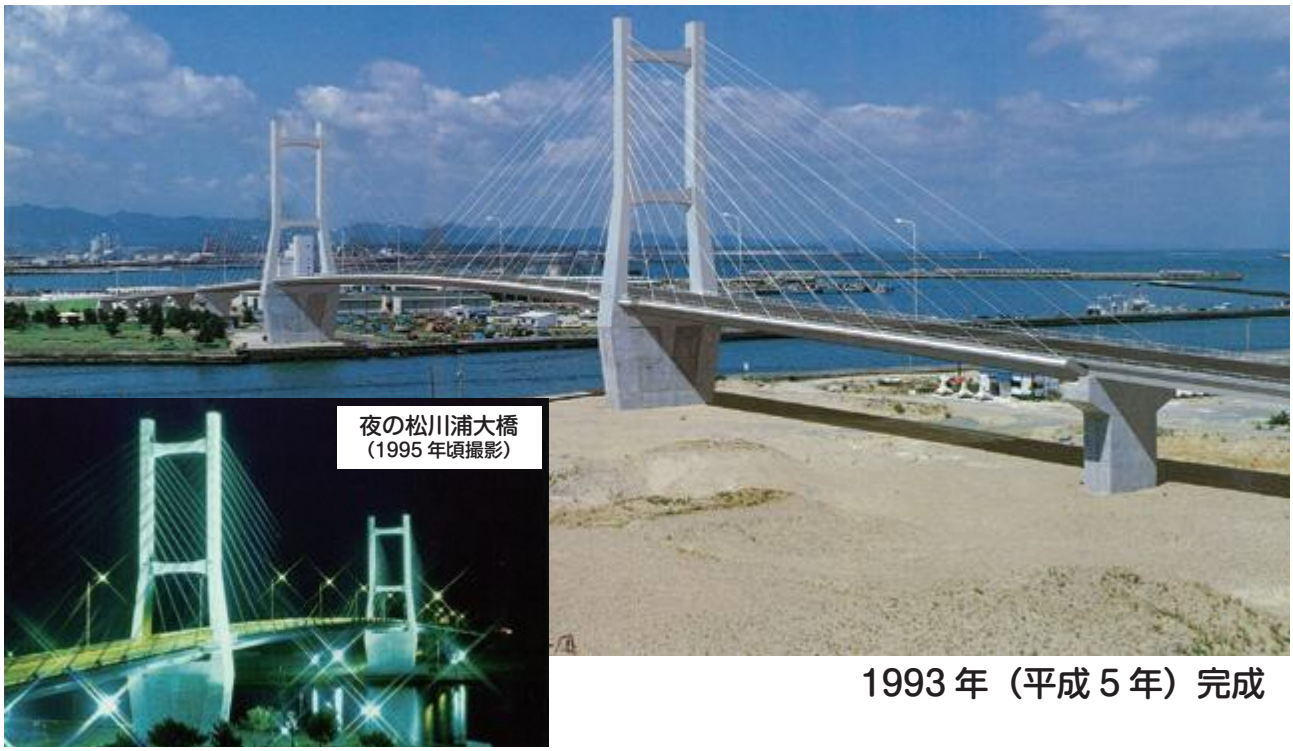
2018 年（平成 30 年）

8 年ぶりの
海開き

～松川浦大橋～

1992 年（平成 4 年）架橋工事 1

1992 年（平成 4 年）架橋工事 2



1993 年（平成 5 年）完成

東日本大震災の記録

津波により被災した旧相馬港湾建設事務所

地震及び津波の概要（その１）

今回の地震により、相馬港（新地町谷地小屋）では**震度６強**を観測。
津波高は気象庁発表では、**9.3 m以上（H23.3.11 15:51）**となっている。
（※相馬港内各地点の浸水高は次ページを参照）

地震及び津波の概要（その２）

（財）港湾空港技術研究所により、相馬港の浸水高及び遡上高を調査した結果は以下のとおり。

相馬港およびその周辺の津波痕跡高
（図中、Ｉは浸水高、Ｒは遡上高、ID は浸水深を示す）
国土地理院による電子国土にデータ追記

⑴相馬港およびその周辺

ｉ）津波痕跡高

浸水高：10.36m
第１埠頭石炭サイロの手すり等に残る断熱材の漂流物

浸水高：10.09m
第２埠頭県営第２上屋の内壁に残る漂流物

遡上高：11.80m
原釜尾浜海水浴場の内陸部における漂流物

図２　第１埠頭におけるサイロ（左）と津波痕跡（右）

図３　第２埠頭における津波痕跡（左）および壁の破壊状況（右）

図４　原釜尾浜海水浴場奥の津波遡上高

図９　神社参道脇の漂流物

⑵釣師浜漁港奥

ｉ）津波痕跡高

遡上高：15.92m
安波神社の参道斜面の漂流物

神社参道脇にあった漂流物（図９）を測量した。参道は人が通行できるように片付けられていたが、（図 10）に示したように参道脇には漂流物が残っていた。

管内の被災額

災害速報(最終報)　H23.7.1報告

相馬港湾建設事務所
(単位;百万円)

種別	港　名	海岸(県管理)	港湾(県管理)	港湾(国直轄)	県・直轄計
港湾	相　馬	1,011	7,470	41,000	49,481

種別	港　名	海　岸	漁　港	計	摘　要
漁港	松川浦(3種)	6,361	13,031	19,392	
	請　戸(3種)	352	5,911	6,263	原発20km圏内
	釣師浜(2種)	7,021	1,990	9,011	
	真野川(2種)	3,855	2,849	6,704	
	富　岡(1種)	263	2,555	2,818	原発20km圏内
	小　計	17,852	26,336	44,188	

管内の計	海岸(県管理)	港湾(県管理)	港湾(直轄)	総合計
	18,863	33,806	41,000	93,669

注)負担法対象施設についての被害額

津波第一波の状況

相馬港に隣接する松川浦地区から撮影　H23.3.11

津波直後の状況

震災直後（尾浜地区）

震災直後（旧相馬港湾建設事務所）

相馬港航空写真

釣師浜漁港
相馬港
松川浦漁港
被　災　前

1号ふ頭
2号ふ頭
3号ふ頭
(整備中)
5号ふ頭
沖防波堤
松川浦漁港
全体（2,730m）の約９割のケーソンが滑動・傾斜
（転倒）した。（※国土交通省所管分）
被災後（H23. 3.12 撮影）

1号ふ頭被災状況

① 矢板岸壁崩壊

② 矢板岸壁倒壊

③ 岸壁背後のエプロン舗装沈下

2号ふ頭被災状況

① 岸壁（矢板式）倒壊

② 荷役クレーン転倒

③ 先端護岸崩壊

5号ふ頭被災状況

① 護岸水叩き舗装破損

④ 相馬共同火力発電（株）の
荷役クレーン倒壊

② 護岸目地の拡大による吸い出し

③ 岸壁エプロン舗装破損

その他　被災状況

津波第１波　１５：４５頃　旧事務所より撮影

職員が避難した避難所の様子

津波襲来直後

17：00 頃の松川浦大橋

人命救助を行う職員

相馬港湾建設事務所歴代職員

	昭和45	46	47	48
相馬港湾所長	影山　寅雄	影山　寅雄	影山　寅雄	杵渕　忠信
総務課長	三瓶　義一	渡辺　忠男	渡辺　忠男	渡辺　忠男
総務課係員	熊井　成吉	熊井　成吉	熊井　成吉	黒沢　則勝
		土田　豊正	黒沢　則勝	土田　豊正
			土田　豊正	梅津　明雄
運転手	森　運七	森　運七	森　運七	森　運七
建設課長	原　貢	原　貢	原　貢	原　貢
建設課係員	花房　弘	花房　弘	内藤捷四郎	内藤捷四郎
	北　正信	北　正信	花房　弘	高野　勝昭
	坂本　登	内藤捷四郎	北　正信	北　正信
	草野　忠	草野　忠	柳沼　孝雄	柳沼　孝雄
	吉田　寿保	小賀坂広征	草野　忠	草野　忠
	柳沼　孝雄	吉田　寿保	小賀坂広征	小賀坂広征
		柳沼　孝雄	吉田　寿保	生田目寿夫
		野辺　主計	藁谷　伸一	藁谷　伸一
			野辺　主計	野辺　主計
技能員	高橋　重喜	高橋　重喜	高橋　重喜	高橋　重喜
			星　光夫	星　光夫
			伏見　定則	伏見　定則

	49
所長	杵渕　忠信
次長（総務）	渡部　利治
次長（業務）	原　貢
総務課長	渡部　利治
総務課係員	黒沢　則勝
	土田　豊正
	梅津　明雄
運転手	伏見　定則
建設課長	原　貢
第一係長	小松　孝一
係員	門馬　武光
	生田目寿夫
	野辺　主計
第二係長	高野　勝昭
係員	北　正信
	草野　忠
	阿部　則義
	安彦　和美
	続橋　淳
技能員	高橋　重喜
用務員	星　光夫

	50	51
所長	杵渕　忠信	木ノ戸政一
次長（総務）	渡部　利治	藤田　幸平
次長（業務）	松崎　哲夫	松崎　哲夫
総務課長	渡部　利治	藤田　幸平
総務課係長	渡辺　正	渡辺　正
	小島　輝夫	小島　輝夫
	土田　豊正	山田　博
	梅津　明雄	梅津　明雄
運転手	伏見　定則	伏見　定則
	高橋　利光	高橋　利光
用務員	－	－
建設課長	松崎　哲夫	松崎　哲夫
第一係長	小松　孝一	小松　孝一
係員	阿部　則義	阿部　則義
	野辺　主計	星　光夫
		野辺　主計
第二係長	高野　勝昭	高野　勝昭
係員	門馬　武光	門馬　武光
	安彦　和美	安彦　和美
	生田目寿夫	続橋　淳
	斎藤　昭次	
	続橋　淳	
第三係長	北　正信	小賀坂広征
係員	星　光夫	生田目寿夫
		佐藤　昭次
（兼）	末永　貞清	割谷　昭男
技能員	高橋　重喜	高橋　重喜

	52	53
所長	木ノ戸政一	竹内英次郎
次長（総務）	藤田　幸平	藤田　幸平
次長（業務）	松崎　哲夫	吉田　浩
総務課長	藤田　幸平	藤田　幸平
総務課係員	小野　幸記	小野　幸記
	渡辺　正	渡辺　正
	小島　輝夫	横山　喜一
	山田　博	山田　博
運転手	梅津　明雄	牧野　善茂
	伏見　定則	伏見　定則
	高橋　利光	高橋　利光
用務員	杉目　光男	杉目　光男
建設課長	松崎　哲夫	吉田　浩
主任主査	斎藤　健秀	
第一係長	小松　孝一	半谷　肇
係員	半谷　肇	岡部　光三
	星　光夫	続橋　淳
	生田目寿夫	原　利弘
第二係長	高野　勝昭	高野　勝昭
係員	門馬　武光	門馬　武光
	続橋　淳	酒井　清美
	山内　正臣	吉田　俊夫
		山内　正臣
第三係長	小賀坂広征	小賀坂広征
係員	柴田　辰彦	柴田　辰彦
	（準職員）	高橋　重喜
（兼）	割谷　昭男	日向　博
技能員	高橋　重喜	

	54	55	56	57
所長	竹内英次郎	松崎　哲夫	松崎　哲夫	松田　忠倫
次長（総務）	下山　敏郎	一條　高明	一條　高明	菅野　荘一
次長（業務）	吉田　浩	阿部　三郎	阿部　三郎	阿部　三郎
総務課長	下山　敏郎	一條　高明	一條　高明	菅野　荘一
庶務係長	佐藤　正夫	佐藤　正夫	佐藤　正夫	佐藤　正夫
係員	佐藤　玲子	佐藤　玲子	佐藤　玲子	佐藤　玲子
	牧野　善茂	牧野　善茂	三浦　毅	三浦　毅
運転手	伏見　定則	伏見　定則	伏見　定則	伏見　定則
	高橋　利光	高橋　利光	高橋　利光	高橋　利光
用務員	杉目　光男	杉目　光男	杉目　光男	杉目　光男
港営係長	小野　幸記	小野　幸記	八巻　清	八巻　清
係員	横山　喜一	横山　喜一	横山　喜一	笠原　裕二
建設課長	吉田　浩	近内　克夫	近内　克夫	近内　克夫
第一係長	半谷　肇	半谷　肇	半谷　肇	甲高　利美
係員	岡部　光三	岡部　光三	岡部　光三	岡部　光三
	柴田　辰彦	横田　道博	横田　道博	横田　道博
	原　利弘	原　利弘	山内　正臣	島　俊秀
第二係長	甲高　利美	甲高　利美	甲高　利美	高橋健一郎
係員	門馬　武光	吉田　俊夫	酒井　清美	酒井　清美
	吉田　俊夫	酒井　清美	吉田　俊夫	高橋　計知
	酒井　清美	山内　正臣	本田　伸一	本田　伸一
	山内　正臣			
第三係長	小賀坂広征	須江　信光	須江　信光	須江　信光
係員	横田　道博	門馬　武光	木村　正夫	木村　正夫
準職員	高橋　重喜	高橋　重喜	高橋　重喜	

	58	59	60	61	62	63	平成元
所長	松田　忠倫	三浦　次男	三浦　次男	河原田幸雄	河原田幸雄	斎藤　健秀	斎藤　健秀
次長（総務）	菅野　荘一	菅野　荘一	鈴木　新治	鈴木　新治	鈴木　新治	佐瀬　元英	佐瀬　元英
次長（業務）	高野　佳久	高野　佳久	大越　茂俊	大越　茂俊	高野　勝昭	高野　勝昭	日向　博
総務課長	菅野　荘一	菅野　荘一	鈴木　新治	鈴木　新治	鈴木　新治	佐瀬　元英	佐瀬　元英
庶務係長	鈴木　稔	鈴木　稔	鈴木　稔	熊井　成吉	熊井　成吉	熊井　成吉	荒　弘光
係員	八巻　セツ	三浦　毅	八城　一衛	笠原　裕二	笠原　裕二	固山　博之	固山　博之
	三浦　毅	池田　孝久	池田　孝久	池田　孝久	池田　孝久	菅野　徹	菅野　徹
運転手	伏見　定則	伏見　定則	伏見　定則	伏見　定則	伏見　定則	伏見　定則	伏見　定則
	高橋　利光	高橋　利光	高橋　利光	高橋　利光	高橋　利光	高橋　利光	高橋　利光
港営係長	八巻　清	片平　哲夫	片平　哲夫	片平　哲夫	高橋　義房	高橋　義房	高橋　義房
係員	笠原　裕二	笠原　裕二	笠原　裕二	八城　一衛	八城　一衛	青木　貴彦	青木　貴彦
		中村　伸裕	中村　伸裕	中村　伸裕	中村　伸裕	新井田光耕	新井田光耕
建設課長	坂本　勝彦	坂本　勝彦	坂本　勝彦	橋本　武彦	橋本　武彦	末永　則雄	末永　則雄
第一係長	菅野　久雄	高村　隆二	高村　隆二	高村　隆二	相沢　忠典	相沢　忠典	相沢　忠典
係員	木村　正夫	木村　正夫	木村　正夫	木村　正夫	矢吹　敏雄	矢吹　敏雄	矢吹　敏雄
	高橋　善清	高橋　善清	高橋　善清	高橋　善清	渡部　浩	渡部　浩	浜津　威彦
	横田　道博	渡部　浩	渡部　浩	渡部　浩	鈴木　良治	浜津　威彦	
	島　俊秀	長沢　信一	長沢　信一	菅野　宗人	浜津　威彦		
		島　俊秀	島　俊秀	益子　公司			
第二係長	高橋健一郎	高橋健一郎	高橋健一郎	斎藤　和弘	斎藤　和弘	斎藤　和弘	斎藤　和弘
係員	酒井　清美	高橋　計知	高橋　計知	長沢　信一	長沢　信一	吉田　俊夫	渡部　浩
	高橋　計知	本田　伸一	玉川　睦夫	玉川　睦夫	菅野　宗人	玉川　睦夫	佐藤　隆
	本田　伸一	玉川　睦夫	鈴木　良治	鈴木　良治	玉川　睦夫	鈴木　良治	益子　公司
						鈴木　義弘	鈴木　義弘
第三係長	須江　信光	菅野　久雄	山崎　国光	山崎　国光	山崎　国光	山崎　国光	吉田　俊夫
係員	菅野　宗人	菅野　宗人	志賀　光男	志賀　光男	志賀　光男	志賀　光男	山崎　光男
	寺島　正治		菅野　宗人	矢吹　敏雄	益子　公司	益子　公司	猪狩　倫

	2	3	4	5	6	7	8	9
相馬港湾所長	斎藤　健秀	高野　勝昭	高野　勝昭	高野　勝昭	田辺　宏	田辺　宏	仙波　安弘	仙波　安弘
次長（総務）	佐瀬　元英	佐藤　亮二	佐藤　亮二	佐藤　亮二	吉田　和史	吉田　和史	吉田　和史	佐藤　節夫
次長（業務）	日向　博	日向　博	宗　像盛	吉川　誠司	吉川　誠司	半谷　肇	半谷　肇	半谷　肇
総務課長	佐瀬　元英	佐藤　亮二	佐藤　亮二	佐藤　亮二	吉田　和史	吉田　和史	吉田　和史	佐藤　節夫
庶務係長	荒　弘光	荒　弘光	山田登喜雄	山田登喜雄	山田登喜雄	大久保重幸	大久保重幸	大久保重幸
係員	固山　博之	菅野　徹	佐藤　淳	土田　修	伊藤　智樹	伊藤　智樹	伊藤　智樹	大槻　公人
	菅野　徹	佐藤　淳	土田　修	高橋　篤	菅野　昭広	大河原糸子	大河原糸子	小島　哲
運転手	伏見　定則	伏見　定則	伏見　定則	伏見　定則	伏見　定則	伏見　定則	伏見　定則	伏見　定則
	高橋　利光	高橋　利光	高橋　利光	高橋　利光	高橋　利光	高橋　利光	高橋　利光	高橋　利光
港営係長	吉川　草一	吉川　草一	吉川　草一	泉　茂雄	泉　茂雄	泉　茂雄	佐藤　隆	佐藤　隆
係員	青木　貴彦	新井田光耕	高橋　篤	菅野　昭広	深堀　睦	大槻　公人	大槻　公人	大河原糸子
	新井田光耕	高橋　篤	菅野　昭広	深堀　睦	菅野　敏之	菅野　敏之	鈴木　秀一	鈴木　秀一
建設課長	末永　則雄	末永　則雄	半谷　肇	半谷　肇	半谷　肇	相沢　忠典	門馬　武光	門馬　武光
港湾係長	半谷　肇	半谷　肇	大石　正広	大石　正広	和田寿美男	和田寿美男	小野　保夫	小野　保夫
係員	山崎　光男	山崎　光男	山崎　光男	猪狩　英二	猪狩　英二	猪狩　英二	渡邉　慶行	渡邉　慶行
	浜津　威彦	大石　正広	星　丈男	星　丈男	菊地　達朗	片寄　健	鈴木　範生	鈴木　範生
漁港係長	斎藤　和弘	斎藤　和弘	斎藤　和弘	箭内　力夫	箭内　力夫	箭内　力夫	箭内　力夫	猪狩　英二
係員	箭内　力夫	箭内　力夫	箭内　力夫	松原　幸治	松原　幸治	松原　幸治	猪狩　英二	安藤　正弘
	佐藤　隆	佐藤　隆	松原　幸治	大竹　和彦	星　丈男	小野　保夫	久納　正義	久納　正義
	益子　公司	大竹　和彦	大竹　和彦	外川　泰司	外川　泰司	外川　泰司	樟山　淳一	樟山　淳一
管理係長	吉田　俊夫	吉田　俊夫	吉田　俊夫	鈴木　盛夫	鈴木　盛夫	鈴木　盛夫	鈴木　盛夫	渡辺　淳
係員	猪狩　倫	猪狩　倫	猪狩　倫	松本　忠則	松本　忠則	松本　忠則	志賀　光男	志賀　光男
	鈴木　義弘	鈴木　義弘	菊地　達朗	菊地　達朗	山野辺俊一	山野辺俊一	山野辺俊一	高橋　俊幸

	10	11	12	13	14
相馬港湾所長	郡司　和夫	郡司　和夫	吉田　好秀	橋本　武彦	高橋　康寛
次長（総務）	佐藤　節夫	佐藤　節夫	熊本　俊博	熊本　俊博	熊本　俊博
次長（業務）	相沢　忠典	相沢　忠典	相沢　忠典	吉野　哲朗	吉野　哲朗
総務課長	佐藤　節夫	佐藤　節夫	熊本　俊博	熊本　俊博	熊本　俊博
庶務係長	大久保重幸	大久保重幸	菅野　邦裕	菅野　邦裕	菅野　邦裕
係員	神野　珠穂	三浦　英俊	三浦　英俊	阿部　幸子	阿部　幸子
	鈴木　秀一	金田　珠穂	金田　珠穂	三浦　英俊	波多野茂正
運転手	伏見　定則	伏見　定則	高橋　利光	高橋　利光	高橋　利光
	高橋　利光	高橋　利光			
港営係長	佐藤　隆	滝口　勝利	滝口　勝利	滝口　勝利	佐藤　祐昭
係員	小島　哲	小島　哲	渡部　和男	渡部　和男	渡部　和男
	沢田　敦司	沢田　敦司	沢田　敦司	久米　雅則	児島　学
			久米　雅則	濱　恵介	久米　雅則
建設課長	門馬　武光	門馬　武光	柴田　辰彦	柴田　辰彦	柴田　辰彦
港湾係長	武内　秀人	武内　秀人	武内　秀人	佐藤　昌明	佐藤　昌明
係員	根本　長一	根本　長一	根本　長一	安藤　正弘	森藤　秀寿
	渡邉　慶行	安藤　正弘	安藤　正弘	上妻　彰男	上妻　彰男
漁港係長	猪狩　英二	渡辺　淳	渡辺　淳	和田　眞	和田　眞
係員	安藤　正弘	高橋　幸治	高橋　幸治	高橋　幸治	高橋　幸治
	久納　正義	鈴木　範生	森山　哲	森山　哲	佐藤　靖敏
	鈴木　範生	森山　哲			
管理係長	渡辺　淳	相川　元	相川　元	相川　元	箭内　力夫
係員	志賀　光男	永野　芳和	永野　芳和	永野　芳和	後藤　聡
	高橋　俊幸	高橋　俊幸	上妻　彰男	後藤　聡	丹野　正人

	15		16
相馬港湾所長	高橋　康寛	相馬港湾所長	小柳　秀一
次長（総務）	尾形　淳一	次長（総務）	尾形　淳一
次長（業務）	斎藤　武正	次長（業務）	斎藤　武正
総務グループ		総務グループ	
総務課長	尾形　淳一	総務課長	尾形　淳一
庶務係長	海藤　芳勝	庶務係長	海藤　芳勝
係員	阿部　幸子	係員	阿部　幸子
	波多野茂正		児島　学
港営係長	佐藤　祐昭	港営係長	佐藤　祐昭
係員	渡部　和男	係員	林　俊幸
	児島　学		波多野茂正
	寺島　正敏		寺島　正敏
運転手	高橋　利光	運転手	高橋　利光
管理グループ課長	原正　夫	企画管理グループ課長	原　正夫
係員	柳沼　喜之	管理係長	鈴木　秀人
	丹野　正人	係員	島　実
			佐藤　靖敏
			柳沼　喜之
建設グループ課長	本田　伸一	建設グループ課長	本田　伸一
港湾担当係長	鈴木　秀人	港湾担当係長	森藤　秀寿
係員	森藤　秀寿	係員	丹野　正人
	後藤　聡		
漁港担当係長	箭内　力夫	漁港担当係長	諏江　勇
係員	会田　誠	係員	会田　誠
	佐藤　靖敏		

	17	18	19
相馬港湾所長	小柳　秀一	有我　修二	有我　修二
次長（総務）	尾形　淳一	中高　克郎	中高　克郎
次長（業務）	五十嵐健次郎	五十嵐健次郎	舟生　寛
総務グループ			
総務課長	尾形　淳一	中高　克郎	中高　克郎
庶務担当	荒　弘光	荒弘　光	武林　祥雄
	阿部　幸子	林　俊幸	涌井　正己
	今村　章	泉谷　徹	泉谷　徹
港営担当C	小室　寛文	小室　寛文	小室　寛文
	林　俊幸	高澤　次郎	高澤　次郎
	小林　則正	小林　則正	小林　則正
	高澤　次郎	今村　章	五十嵐規夫
運転手	高橋　利光	高橋　利光	高橋　利光
企画管理グループ課長	原　正夫	松田宗一郎	松田宗一郎
管理C	鈴木　勝徳	鈴木　勝徳	鈴木　勝徳
	島　実	渡邉　健芳	渡邉　健芳
	佐藤　靖敏	児玉　博史	児玉　博史
	児玉　博史	木村　秀美	木村　秀美
建設グループ課長	本田　伸一	宗像　良夫	宗像　良夫
港湾担当C	諏江　勇	諏江　勇	猪狩　倫
	会田　誠	近内　剛	近内　剛
	柳沼　喜之	島　実	島　実

	20	21	22	23	24
相馬港湾所長	和田寿美男	大堀　雅治	浅野　俊和	山内　正臣	山内　正臣
次長（総務）	中高　克郎	木沢　俊哉	木沢　俊哉	木沢　俊哉	中山　幹郎
次長（業務）	舟生　寛	本田　伸一	本田　伸一	根本　長一	根本　長一
総務課					
総務課長	中高　克郎	木沢　俊哉	木沢　俊哉	木沢　俊哉	中山　幹郎
総務担当C	伊藤　孝子	伊藤　孝子	伊藤　孝子	宍戸　佐壽	宍戸　佐壽
	佐藤　克彦	佐藤　克彦	佐藤　克彦	林　あゆみ	林　あゆみ
	泉谷　徹	西　裕嗣	西　裕嗣	太田久美子	菅野　明
					官野　勝史
港営担当C	武林　祥雄	武林　祥雄	鈴木　健二	鈴木　健二	鈴木　健二
	五十嵐規夫	会田　房男	会田　房男	会田　房男	会田　房男
	大内　彩香	大内　彩香	太田久美子	官野　勝史	高橋　厚
	安藤　友紀	安藤　友紀	安藤　友紀	安藤　友紀	安藤　友紀
企画管理課	松田宗一郎	松本　忠則	松本　忠則	高萩　俊	高萩　俊
企画管理C	宍戸　勤	宍戸　勤	宮原　稔	宮原　稔	矢沢　浩一
	渡邉　健芳	渡邉　健芳	古内　忠勝	古内　忠勝	古内　忠勝
	渡部　孝光	渡部　孝光	渡部　孝光	樋口　利男	坂本　智正
	木村　秀美	西尾　隆史	西尾　隆史	西尾　隆史	樋口　利男
					逸見　信之
建設課	舟生　寛（兼）	本田　伸一（兼）	本田　伸一（兼）	根本　長一	面川　偉之
建設担当C	猪狩　倫	猪狩　倫	西山　剛	西山　剛	高橋　幸治
	近内　剛	宮原　稔	加藤　淳	加藤　淳	加藤　淳
	加藤　淳	加藤　淳	鈴木　孝匡	鈴木　孝匡	鈴木　孝匡
任期付					野田　宏
					五関　敏之
					坂本　正明

	25	26	27	28	29	30
相馬港湾所長	山内　正臣	宗像　良夫	宗像　良夫	宗像　良夫	南場　貴史	猪狩　倫
次長（総務）	中山　幹郎	中山　幹郎	大場　久雄	大場　久雄	大場　久雄	矢吹　幸雄
次長（業務）	矢吹　敏雄	矢吹　敏雄	猪狩　倫	猪狩　倫	笹本　進	笹本　進
総務課						
総務課長	中山　幹郎	中山　幹郎	大場　久雄	大場　久雄	大場　久雄	矢吹　幸雄
総務・経理担当C	宍戸　佐壽	柴田　清瑞	柴田　清瑞	柴田　清瑞	吉田　光江	吉田　光江
	林　あゆみ	林　あゆみ	佐藤　佳恵	樋口　智昭	樋口　智昭	樋口　智昭
	官野　勝史	竹内　洋修	金田　亮介	金田　亮介	荒　貴裕	佐藤　佳恵
	荒　貴裕	荒　貴裕	荒　貴裕	荒　貴裕	青山　修也	青山　修也
				佐藤　佳恵	佐藤　佳恵	
港営・用地担当C	佐藤　政浩	佐藤　政浩	佐藤　政浩	猪股　剛	猪股　剛	猪股　剛
	高橋　厚	高橋　厚	高橋　厚	菊地　秀幸	菊地　秀幸	高橋　幸枝
	菅野　明	菅野　明	菊地　秀幸	菅野　優	菅野　優	菅野　優
	丹治　雄佑	丹治　雄佑	愛原健太郎	愛原健太郎	愛原健太郎	吉田　賢司
		金田　亮介	丹治　雄佑	吉田　賢司	古谷　晴英	安齋　大樹
				安齋　大樹	吉田　賢司	藤村　信一
				藤村　信一	安齋　大樹	
					藤村　信一	
任期付	岡田　慶彦	岡田　慶彦	岡田　慶彦			
運転手（専門員）	安藤　友紀	安藤　友紀	安藤　友紀	安藤　友紀	安藤　友紀	安藤　友紀
					高橋　邦久	高橋　邦久
企画管理課長	高萩　俊	木下　秀幸	木下　秀幸	木下　秀幸	山田　明弘	小川　航司
企画管理担当C	矢沢　浩一	矢沢　浩一	矢沢　浩一	大和田智彦	大和田智彦	大和田智彦
	宗形恒太郎	坂本　智正	間山　達郎	高橋　徹	高橋　徹	高橋　徹
	坂本　智正	田中　初実	佐藤　洋輝	佐藤　洋輝	近藤　雄太	目黒　秀昂
任期付	田中　初実	宍戸　保	宍戸　保	宍戸　保	高橋　義之	高橋　義之
	宍戸　保			野田　宏		
建設課長	猪狩　倫	猪狩　倫	草野　滋	草野　滋	草野　滋	田宮賢寿郎
港湾整備担当C		宗形恒太郎	宗形恒太郎	宗形恒太郎	三品　和彦	三品　和彦
港湾復旧担当C	高橋　幸治	高橋　幸治	高橋　幸治	田邊　健太	田邊　健太	田邊　健太
漁港復旧担当C	渡邉　健芳	渡邉　健芳	渡邉　健芳	鈴木　伸和	鈴木　伸和	鈴木　伸和
海岸復旧担当C	山口　孝太	山口　孝太	山口　孝太	木村　晴信	木村　晴信	－
	樋口　利男	樋口　利男	樋口　利男	逸見　信之	塩谷圭太郎	柳沼　毅
	逸見　信之	逸見　信之	逸見　信之	岡部　誠	榊原慎太郎	榊原慎太郎
	鈴木　孝匡	岡部　誠	岡部　誠	三品　智和	柳沼　毅	鈴木　康平
		三品　智和	三品　智和	塩谷圭太郎	鈴木　康平	近藤　雄太
			田中　初実	榊原慎太郎	白石　和稔	白石　和稔
			塩谷圭太郎	間山　達郎	間山　達郎	
任期付	野田　宏	野田　宏	野田　宏			
	五関　敏之	五関　敏之	吉原　勉	吉原　勉		
	吉原　勉	吉原　勉	高橋　義之	高橋　義之		
	藤澤　正和	吉野　正孝	五十嵐俊三	五十嵐俊三	五十嵐俊三	五十嵐俊三
	栗屋　睦	高橋　義之				

	31（令和元）	2
相馬港湾所長	猪狩　倫	近内　剛
次長（総務）	矢吹　幸雄	矢吹　幸雄
次長（業務）	神谷　順一	神谷　順一
総務課		
総務課長	矢吹　幸雄	矢吹　幸雄
総務・経理担当係長	吉田　光江	紺野　亮
係員	佐藤　佳恵	佐藤　佳恵
	後藤奈津子	後藤奈津子
	宮嶋　秀彰	宮嶋　秀彰
	佐藤　麻代	
港営・用地担当係長	羽染　旬矢	羽染　旬矢
係員	高橋　幸枝	高橋　幸枝
	菅野　優	芳賀　嵩之
	芳賀　嵩之	木幡　篤志
	青山　修也	
運転手（専門員）	高橋　邦久	高橋　邦久
	高橋　利光	高橋　利光
企画管理課長	小川　航司	田宮賢寿郎
企画管理担当係長	上妻　彰男	上妻　彰男
係員	大和田清美	大和田清美
	目黒　秀昂	佐藤　雄輔
任期付	高橋　義之	高橋　義之
建設課長	田宮賢寿郎	
港湾整備担当係長	三品　和彦	吉田　秀喜
係員	鈴木　康平	鈴木　康平
	近藤　雄太	叶　裕輔
任期付	五十嵐俊三	
漁港復旧担当係長	西尾　隆史	西尾　隆史
係員	柳沼　毅	菊池　康太
	白石　和稔	菊地　海里

相馬港湾建設事務所

震災前

現　在

あとがき

相馬港60周年の節目の年を迎え、ここに記念誌が刊行されたことを、編集にかかわった者として大変嬉しく思っています。

この編さん作業を通じ、相馬港となって以来の６０年の間、歴代所長をはじめとする先輩方が築き上げてきた歳月の重みを感じるとともに、そのご苦労、ご尽力を思うと感謝の念に堪えません。

記念誌の編さんにおいては、様々な年代の写真を活用するとともに、震災以降の記録に重点を置き、取りまとめました。

この記念誌が多くの方に幅広く活用され、相馬港の発展と関係者各位の繁栄に寄与することができれば幸いです。

最後に当記念誌の編集にあたり、お忙しい中原稿及び資料をお寄せいただきました皆様方に深く感謝申し上げ、御礼といたします。

編集委員　田宮　賢寿郎
紺野　　亮
佐藤　　佳恵
後藤　奈津子

写真で見る相馬港の60年

令和３年３月５日発行
編集・発行／相馬港湾建設事務所
〒976-0021　福島県相馬市原釜字大津183
TEL：0244-26-8768 FAX：0244-38-8200
E-mail:souma.kouwan@pref.fukushima.lg.jp
URL: https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/41390a/

相マヌの復興は港から